



松 明

(平成30年3月発行・隔月発行) 2018 vol.2



QCサークル最優秀賞 第5病棟メンバー

平成29年度 福島病院QCサークル活動発表会

統括診療部長 石 井 勉

当院では2月7日(水)と8日(木)の両日にQCサークル活動発表会が開催されました。『QC(キューシー)サークル活動』は聞き慣れない言葉でしょうか。QCはQuality Control(クオリティ・コントロール)の略語で、組織における『Quality=質』を自己および相互啓発によって『コントロール=高め』合う活動です。職場内、時には職場を越えて自発的に組織された小グループが、各職場での改善テーマを自主的に選定し1年間を通して取り組む改善活動がQCサークル活動です。今年は8サークルがその活動成果を発表しました。

さて、ここでの『質』とは何でしょう。これは、当院の理念の「納得の医療で地域や社会に貢献」に関するものであればテーマは自由です。今年度の最優秀賞は5病棟のメンバーが選ばれました。「尿漏れを減らそう～個性を生かしたオムツ交換の実施～」を活動テーマに掲げ、各々の患者様ごとに漏れの原因を調べ、スタッフのオムツの当て方の講習会を開催し、個性のあるオムツ交換を行えるようになったことで、見事に尿漏れを減らすことを達成しました。小グループの取り組みが病棟全体を巻き込み、患者様の快適に貢献できた当院独自の

取り組みでした。優秀賞には、栄養管理室と外来部門の共同メンバーにより「外来における栄養指導件数の増加」をテーマとした活動が選ばれました。活動によって栄養指導の敷居が低くなり、外来患者様からは栄養の大切さや日常生活での気をつけるポイントがよくわかった等大変喜ばれる結果となりました。

当院でのQCサークル活動も10年以上継続しており、職場内での問題解決の手法として確実に院内に根付いてきております。今後もこの活動を通して、地域医療に貢献できるよう、問題解決に対してチャレンジ精神にあふれる病院を目指し活動を継続していく予定です。



本号のご案内

- | | | | |
|------------------------------|---|--------------------------------------|---|
| ●平成29年度 福島病院QCサークル活動発表会…………… | 1 | ●看護学校だより 特別講演を開催いたしました…………… | 5 |
| ●QCサークル最優秀賞を受賞して…………… | 2 | 卒業にむけて…………… | 5 |
| ●院内シンポジウム『福島病院の飛躍に向けて!!』を開催… | 2 | ●療育だより 今年も一年楽しく過ごせますように!! ~わかさ神社参拝~… | 6 |
| シンポジストとして…………… | 3 | ●健康プラザ 腸をきれいに感染予防…………… | 6 |
| 院内シンポジウムを終えて…………… | 3 | ●不審者対応訓練を実施しました…………… | 7 |
| ●看護部だより プリセプター研修Ⅱ…………… | 4 | ●NHO PRESS ~国立病院機構通信~について…………… | 7 |
| ●リニューアル(=・ω・=)にや~♥…………… | 4 | ●外来担当医表…………… | 8 |

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

QCサークル最優秀賞を受賞して

第5病棟 看護師 吉田恵美

第5病棟では、今年度より大幅なスタッフの交代があり、それに伴いさまざまな問題が持ち上がりました。その中でも、オムツの尿漏れは深刻で身近な問題であり、スタッフの大半が改善したいと思っていたことだったため、今年度のQC活動の選定理由となりました。

QC手法に乗っ取り、1つずつ問題要因を徹底的に追及し、そこからそれに合った対策を立て実施しました。手技の統一や意識の向上のため、外部より講師を招いた勉強会の開催や、何度もカンファレンスを開き意見を出し合ったりと病棟スタッフが丸となり取り組むことが出来たと思います。尿漏れの減少という目標を達成し、発表も練習を重ねた甲斐があり上手く出来たのではない

かと思います。

結果、大変ではありましたが、最優秀賞を頂くことが出来ました！今回の活動では、習慣化している意識を変える難しさや個性を活かす大切さを学ぶことが出来ました。今後もこの活動が続くように、そして少しでも病棟がスキルアップしていけるように頑張っていきたいと思っています。



QCサークル活動発表会 上位表彰サークル			
表彰	部署	サークル名	テーマ
最優秀賞 (第1位)	第5病棟	尿漏れストッパーズ	尿漏れを減らそう ～個性を生かしたオムツ交換の実施～
優秀賞 (第2位)	外来・栄養	外来 & 栄養管理室	外来における栄養指導件数の増加！！
優良賞 (第3位)	栄養管理室		NO MORE 余剰食材 ～食材管理における余剰食材の削減～
院長賞	看護学校	みんなのこと守り隊	今、何人いるの？ ～学生数把握における、災害時のためのシステムの見直し～



院内シンポジウム『福島病院の飛躍に向けて!!』を開催

事務部長 伊藤幸淑

福島病院では、これまでの重症心身障害児（者）医療及び内科疾患に対する医療を主たる診療機能として位置付けてきましたが、平成30年度からは脳神経内科疾患を新たな診療機能として追加することが決定し、また、建物の有効活用等の観点から、旧周産期母子医療センターの改修計画も進めている現状にあります。

このように、平成30年度は福島病院にとって大変重要な年度でありますし、そして最大の課題の一つである経営改善に対して、医療の質向上を図りながら進めていくためには、何よりも職員一人ひとりが病院運営に積極的に関わるという意識を持つことが極めて重要であると考えています。

そこで、病院が今考えていることの情報発信の場と、職員の意識高揚策の一つとして、平成30年2月21日（水）17時30分～19時30分（場所：大会議室）院

内シンポジウム『福島病院の飛躍に向けて!!』を開催したところ、職員60名の方々が出席しました。

会の前半では、私（伊藤事務部長）から『今後の病棟構成（案）及び平成30年度事業計画（案）について』と中嶋経営企画室長から『7：1看護について』を説明し、病院の運営方針等を伝達しました。また、会の後半では『福島病院の飛躍に向けて!!』というテーマでシンポジウムを開催し、石井統括診療部長が座長を務め、職場長8名の方々が各々の職場の課題や解決方策等に関する発表を行いました。

発表者からは、平成30年度に向けて各職場が目指すべきことや課題等が述べられるとともに、併せてチーム医療及びコミュニケーションの重要性についても触れる発言が多く飛び出し、出席者の多くが納得できる内容となりました。

更に発表後には、座長である石井統括診療部長の絶妙なリードにより、フロアーからの様々な感想を聞き出すことができ、和気あいあいと非常に盛り上がったシンポジウムとなりました。

最後になりますが、今後とも病院ではこのような職員一体感を醸成できるようなイベントを企画していきますのでよろしくお願いします。



<院内シンポジウム「福島病院の飛躍に向けて!!」>	
内 容	演 者 等
開会の挨拶	氏 家 院 長
今後の病棟構成（案）及び 平成30年度事業計画（案）について	伊 藤 事 務 部 長
7：1看護について	中 嶋 経 営 企 画 室 長
（院内シンポジウム）座長：石井統括診療部長	
薬剤科の取り組み	森 塚 薬 剤 科 長
放射線科のこれから	菅野副診療放射線技師長
研究検査科の立場から	濱 臨 床 検 査 技 師 長
栄養管理室での取り組み	西 舘 主 任 栄 養 士
30年度リハビリテーション科計画	山 内 運 動 療 法 主 任
福島病院の飛躍に向けて！！	渡邊主任臨床工学技士
療育指導室の取り組み	鈴 木 療 育 指 導 室 長
7：1看護について	古 川 看 護 師 長

シンポジストとして

研究検査科 臨床検査技師長 濱 敏 則

福島病院のシンポジウム開催は昨年に引き続き2回目の開催となりました。今年は「福島病院の飛躍に向けて!!」というテーマでコメディカル7名、看護師1名、7：1の構図で行われましたが、入院基本料7：1看護の重要性がシンポジウムに現れていたと感じました。また、4月には脳神経内科が充実されることから平成30年度は福島病院にとって飛躍の年になると考えています。

検査科ではテーマについて、まず現状をしっかり認識し対処すべきところは何なのか「見える化」を行いました。平成29年度から周産期医療の撤退で検査件数の大幅減少に伴い、検査試薬の見直しなど検査科のコスト削減を行ったにもかかわらず検査収益は大幅に減少してしまいました。検査科がなすべき事は、検査件数を増加さ

せるため神経生理検査と超音波検査の充実が欠かせません。また、重症心身障害児（者）病棟の検査についても見直しを行い検査件数の増加を図ります。これによりV字回復を成し遂げ、福島病院の飛躍の一助になればと考えています。



院内シンポジウムを終えて

リハビリテーション科 運動療法主任 山 内 拓 野

平成29年度は、患者さんの情報共有強化と経営改善を目標に1年間取り組んできました。来年度に向けての課題は、他職種と連携した患者さんの個性に合わせたポジショニングの理解と実施が必要だと思います。その為には、昨年から引き続いてカンファレンスの情報共有が欠かせません。特に、新規立ち上げとなる脳神経難病疾患のリハビリテーションでも重要となります。現在は、機能面のリハビリテーション評価情報、生活面のリスクや個別的生活・介助レベルの情報、環境面のコール選択と位置設定情報、コミュニケーション面の機器選択情報を軸に新年度へ向けて準備をしております。個別性と疾患

の特性に沿った理学療法・作業療法の提供を行い、患者さんのQ.O.Lに向けて安心できるような体制をスタッフと取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。



今年度もあと少しです。4月からは新人看護師を迎えることとなります。看護学校を卒業したばかりの新人看護師のお姉さん・お兄さん役として「プリセプター」という役割があります。その人材を育成するのが「プリセプター研修」です。

今回は看護師経験3年目の方を対象に6月と2月にプリセプター研修を行いました。6月にはプリセプターのスキルに必要な「コーチング」を学び、研修後には「プリセプター支援計画」を考えてもらいました。今回2月1日に行った「プリセプター研修Ⅱ」では、自分たちの立てた「プリセプティ支援計画」をさらに深め、具体的な支援行動に結び付けるためのグループワークを行ってもらいました。新人だった3年前の悩みや不安、初夜勤の気持ち、どんな時に失敗しやすいかなど思い出してもらい、そんな時にプリセプターとして、どのような支援をしてあげたいかを考えてもらいました。

「話しやすくリラックスできる環境作り」「眠れているか体調を確認する」「分からないことを一緒に考える」など新人の気持ちに寄り添った意見が沢山でした。きっと、優しく細やかで丁寧な指導ができる「プリセプター」になれると思います。頼りにしていますよ。



リニューアル(=・ω・=) にゃ〜♡

今月のニャン担当者

1病棟の向かい側にある女子更衣棟と病棟をつなぐ白い扉はご存知ですか？男性はあまり立ち入らないので分からないかもしれませんね。今年1月から白い扉の向こう側の小スペースがリニューアルされました。



壁は元気がでる「ビタミンカラー」に、無機質だった掲示板はレンガで「あたたかい雰囲気」に変わりました。

よく見ると、至る所に『ニャン(猫)』がいるではないですか？今年は『犬』年なのになぜ『猫』？と思っている人もいると思いますが、『猫カルタ』になっていることがポイントです。12月にその答えが見つかりますよ。ヒントは「頭文字」です。仕事に行く前、仕事終わりに皆さんが「元気になって、ホッコリできる空間」を目指しています。ぜひ毎月変わる『今月のニャン』をみて和んでください。



看護学校だより

特別講演を開催いたしました

附属看護学校 教員 平尾 なほみ

当校では、「医療・看護についての知識及び関心を深める。」というねらいで、学生に向けて、卒業式間近に特別講演を行っております。今年は、国立病院機構仙台西多賀病院の看護師、佐々木菜央先生を講師に迎え、「認知症看護～認知症者の体験世界を知ろう～」という題名で講演をして頂きました。内容は、認知症の原因や種類・症状、看護の実際について、事例を交えながらのお話でした。認知症は、学生が臨地実習へ行っても、出会うことの多い疾患です。そして、学生がどのように関わって良いか戸惑うことが多い患者さんの疾患も認知症です。佐々木先生のお話は、患者さんとのコミュニケーションの方法や、患者さんを理解するために大切なことがわかりやすく、患者さんと沢山関わらせて頂きたい、より良いケアを提供したいという気持ちとなり、学生達も熱心

に耳を傾けていました。当院は、4月より脳神経内科病棟が開設されます。附属看護学校の学生として、これからはますます認知症患者の方々を受け持たせて頂く機会が多くなることと思います。この講演での学びを活かし、患者さんに寄り添っていくことができるよう、教員も学生と共に認知症の看護を深めていきたいと思っています。



看護学校だより

卒業にむけて

附属看護学校 12回生 鈴木 千 紘

3月9日（金）に卒業式が行われました。3年間を通じて看護師を目指す者だけではなく、人間的にも成長することができたと感じます。入学当初から“絶対看護師になる”と自分に言い聞かせながらも、授業や実習で精一杯になり、戸惑うこともありました。しかし、親身になって相談に乗って下さる先生方や、丁寧にアドバイスを下さる指導者の方々、仲間や家族に支えられ充実した学校生活を送ることができました。

臨地実習では、多くの患者さんに関わらせて頂き、看護に必要な知識・技術を学ばせて頂きました。時には悩んだり、辛いと思うこともありましたが、そんな時には患

者さんの笑顔や「ありがとう」の言葉に励まされました。また、他の学生や病棟のスタッフの方々と協力して看護を提供することの重要性や患者さんの人生に関わらせて頂くことのありがたさ、命の尊さを改めて実感しました。

患者さんやご家族の方との思い出や、常に私たちを気に掛けて寄り添って下さった先生方、同じ夢を持つ大切な仲間との出会いは私にとって、かけがえのない宝物です。これから悩んだ時や辛い時にこの宝物を支えとして、新たな場所で夢に向かって歩んでいきたいと思っています。そして、学校生活で得た学びを忘れず看護師としてより良い看護が提供できるよう日々精進していきたいと思っています。



新年を迎え、療育棟に『わかくさ神社』を設置しました。『わかくさ神社』には、手作りの鳥居、鈴、賽銭箱、イラストで参拝作法が書いてある看板、おみくじを準備し、療育活動の時間にわかくさ神社へ参拝に。今年も一年楽しく過ごせますようにお祈りしました。

鳥居を緊張した様子でくぐる方、参拝作法を確認しながら職員と一緒に参拝する方、鈴を何回も鳴らして喜ぶ方、今年の運だめしとおみくじに手を伸ばす方... 反応

はさまざまでしたが、実際に神社に参拝に行ったような体験ができました。

手作りおみくじの内容

(1枚1枚、保育士さんの手作りです)

大吉…今日は絶好調な1日。何をやっても上手くいくよ!

吉…みんなにたくさん褒められる1年になるでしょう。

中吉…面白いテレビが始まるでしょう。

凶…掃除して気分リフレッシュ!



私たちの腸内には腸内細菌が100兆個以上存在している。これは人間一人を構成する細胞(37兆個)より多く、重量は1kgほどで肝臓とほぼ同じ重さです。近年では一つの臓器として例えられています。腸内細菌には①病原菌からの感染防御、②免疫力の向上、③難消化性食物(食物繊維など)を分解し腸を丈夫にする、といった働きがあります。しかし、現状は食生活の乱れや便秘、ストレス、加齢等によって腸内環境が崩れる要因が数多く存在しています。最近の研究では腸内環境が崩れることで糖尿病や肥満など様々な疾患との関連性が報告されています。そんな腸内環境を改善するための方法としてシン

バイオティクスという言葉を紹介したいと思います。シンバイオティクスとは腸内に善玉菌といわれるビフィズス菌・乳酸菌(総称してプロバイオティクス食材という)と、善玉菌を育てるための餌(食物繊維やオリゴ糖など。総称してプレバイオティクスという)を組み合わせるという意味です。腸内環境を整えることで腸管のバリア機能を高め免疫を強化し、また下痢や便秘の改善にもつながるとの報告もあがっています。とくに高齢者(65歳以上)や経腸栄養を使用している方は腸内細菌数が低下している報告もあるため、この機会にシンバイオティクスを始めてみてはいかがでしょうか。



不審者対応訓練を実施しました

医療安全管理室 医療安全管理係長 渡 邊 美紀江

平成 30 年 2 月 20 日（火）、医療安全研修の一つとして不審者対応訓練を実施しました。

今回の訓練は、外来で大きな声を出し棒のような物を手にした不審者が侵入し、警察への通報から到着までの間対応するという状況設定で実施しました。初めての訓練ということで手探りの部分もありましたが、実施してみると不審者役の職員の名演技や、駆けつけた職員の迅速な対応により想像以上に緊迫感のある訓練となりました。実際に患者さんの避難誘導や院内放送、駆け付けた職員による不審者の取り囲み、警察への通報（模擬）、さすまたを使用しての対応、逃げようとする不審者へカラーボールを投げつける等、一連の流れを確認しながら実施することができました。また実施したことにより、良かった点や改善点など多くの気づきを得ることができました。

報道等にもあるように不審者に関連した事例は各地で発生しており、福島県内の医療機関においても被害の有無に関わらず暴力・暴言等に関連する事例が発生しているとの情報もあります。いつ起きるかわからない不測の事態に対して、日頃から職員全体で危機意識を高め、安

全かつ落ち着いて行動するためにも訓練の必要性を改めて感じました。今回の訓練で得られた学びを、今後の研修に活かしていきたいと思います。



NHO PRESS～国立病院機構通信～について

福島病院は、国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）という142の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。受付や待合室に設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去ものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



NHO PRESS

検 索



QRコード

●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【平成30年4月1日より】

区 分	月	火	水	木	金
内 科 1	安 田 千 尋	安 田 千 尋		大 戸 齊 ※	安 田 千 尋
内 科 2	佐 藤 由 紀 夫 (第1・3)				
検 査				安 田 千 尋	
脳 神 経 内 科	伊 藤 英 一	根 本 和 夫	伊 藤 英 一	根 本 和 夫	杉 浦 嘉 泰
小 児 科	石 井 勉 (2・4) 福 島 医 大	氏 家 二 郎 石 井 勉	廣 瀬 千 穂	氏 家 二 郎	河 原 田 勉
専 門 外 来 (発達小児クリニック)		氏 家 二 郎 石 井 勉			河 原 田 勉
専 門 外 来 (小児神経外来)	平 山 恒 憲 (第2)			石 井 希 代 子 (1・3・5) 加 藤 朝 子 (2・4)	
専 門 外 来 (小児循環器外来)			桃 井 伸 緒 (第2・4)		
小 児 専 門 外 来			予 防 接 種 (午後)		
整 形 外 科	古 川 浩 三 郎 (予約制)	古 川 浩 三 郎 (予約制)	古 川 浩 三 郎 (予約制)	古 川 浩 三 郎 (予約制)	古 川 浩 三 郎 (予約制)
小 児 外 科				清 水 裕 史	
脳 神 経 外 科		福 島 医 大 (第2・4)			

※小児神経外科は再来のみとなります。

※大戸斉先生の診療日についてはお問い合わせください。

●外来受付時間は8:30～11:00までです。急患については随時受付いたします。

●外来担当医表は平成30年4月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

●専用ダイヤルができました●

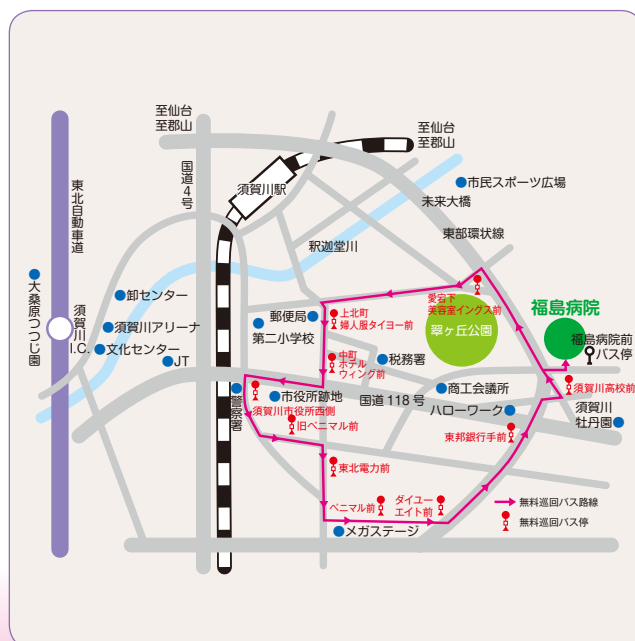
診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 8:30～17:15)

診 療 の 予 約 ・ 変 更 等 (月～金 13:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

ここに勤めて7年目になり気づいたら30歳直前になり立派なアラサーとなりました。仕事面ではまだまだ未熟なのに年だけが増えていき「自分は成長しているのか？」と不安を感じているが、7年前と今の自分で何が変わったのかと問われるとはっきりとした答えが出てきません。はっきりと言えるのは体重が増えたことです。(編集委員 S)



Fukushima National Hospital
独立行政法人国立病院機構

福島病院

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<http://fukushima-hosp.com/>